

## すべての原発を止めよう！

若狭の原発を止め、再開を許さないために

### 討論集会

－脱原発運動の盛り上がりとこれからの課題－

【討論内容】 市民の盛り上がり、各自治体の動き、福井からの報告  
原発のもつ危険性と崩れ去った安全基準など

ばしょ 「市民交流センターなにわ」 202号室  
とき 7月10日（日） pm1:30～4:30

- ・ 原発・核施設の運転・建設・計画の全面停止を！
- ・ 安全基準の抜本的改定！耐震性なき原発の閉鎖！
- ・ 運転30年以上経過の老朽化原発の閉鎖！
- ・ EPZを30～50kmへ拡大し、  
防災計画の策定が困難な原発・核施設は閉鎖を！
- ・ 直下に震源断層を持つ原発・核施設の閉鎖を！
- ・ 原発システム輸出を撤回を！
- ・ 電源三法を廃止、原子力予算を大幅削減し、  
省エネ・再生可能エネルギー普及予算の大幅拡大！



「市民交流センターなにわ」 202号室 JR環状線「芦原橋」下車すぐ

6月11日「原発いらん！関西行動(第2弾)」に  
約4000人が結集しました。

関電にだす要請文「原発を止めて下さい」を  
17日に関電本社に出向き手渡しました。  
ご協力ありがとうございました。

さあ、原発を止める闘いを本格的に準備しましょう。  
脱原発を実現させるため、  
7月10日に大阪の地で、集会を持ちます。



3月11日のフクシマ事故から3ヶ月以上経つ中で、  
原発を止めるためには、何が問題となり、  
何が運動にとって必要なかを  
多くの皆さんと知恵を出し合い、  
短期的な闘い、また長期的な闘いを整理し、  
勝利をするための戦略を議論しあいたいと思います。  
原発のない明るい社会を実現させるため、  
気持ちの良い汗をかきたいものです。



子どもや孫には、ビクビクする生活を強いる社会など  
バトンタッチしたくはありません。  
原発から抜け出すため、  
小さくても偉大なる一步を踏み出したいものです。

フクシマ事故は 未だに収束していません。  
見通しの立たない深刻な状況が続いています。  
福島県知事は、「脱原発」を宣言し、  
福井県知事は、国の原発安全基準を見直さないと、  
原発の運転再開は認められないとしています。



規制当局は猛省し、安全基準を見直すべきです。  
直下地震や近隣での大地震にも  
耐えられると言いつづけてきた  
関電を厳しく問いたてていきましょう。  
若狭の原発でも、地震による重大事故が  
いつ起きてもおかしくありません。  
すべての原発を止め、耐震性評価と  
地震・津波対策を根本からやり直し、  
耐震性なき原発は閉鎖するように  
追い込んでいきましょう。

ヒロシマ、ナガサキ、JCO、フクシマの痛みを  
若狭にある運転中の原発を止めましょう。  
フクシマ原発事故が明らかにしたものの、  
それは、原発の安全基準そのものに  
重大な欠陥があったことです。  
安全基準がデタラメでは、  
「原発の安全性評価」もデタラメです。



浜岡原発は全面的に運転停止しました。  
 しかし、琵琶湖から30～50km圏内の若狭では、  
 美浜2号、大飯2・4号、高浜2～4号の6基が  
 営業運転を継続しています。  
 定期検査中である大飯1号は  
 姑息にも「調整運転」といいながら、  
 3ヶ月以上、大手を振って発電しています。



フクシマ原発事故から浜岡原発も危険、  
 それなら全ての原発も危険なはずです。  
 とくに、敦賀半島は地震の空白地帯といわれて久しく、  
 原発直下には複数の震源断層が走っています。  
 「フクシマ原発事故を教訓とする」と言うのなら、  
 「安全確保」を言うのなら、すべての原発の運転を止めるべきです。  
 原発の安全の大元となる安全審査に重大な欠陥がありました。  
 原子力安全委員長は、  
 「安全設計指針というのが明らかに間違っている。  
 全電源喪失なんていうことは、長時間考えなくてもいいとか、  
 これは明らかに間違いです。」と、言い出しました。

### 電源喪失に対する設計上の欠陥

「今まで」  
 長期間にわたる全電源喪失は、送電線の復旧又は  
 電源設備の修復が期待できるので考慮する必要は  
 ない。  
 ↓ 大事故が起こればと。  
 「急いで」  
 5月19日 原子力安全委員会、岡田委員長  
 安全設計指針が明らかに **間違っている**

彼は2年前、「あれも起こる、これも起こる、仮定の上に何個も重  
 ねて、初めて大事故に至る。  
 だから、こう言っていると、設計ができなくなっちゃうよ。  
 ものなんて絶対造れません。だからどっかでは  
 割り切るんです」と、証言しています。

(平成19年2月16日第17回口頭弁論速記録)

「割り切った」結果が、  
 福島第一原発重大事故だったのです。  
 この事故は、「想定外」ではなく、  
 安全性を「割り切った」ための人災でした。



原発なくても地球は回る

北阪 英一

私たちは、

- ・ 国の原発の安全基準そのものが、今回の事故で抜本的見直しが必要であること。
- ・ 原発の耐震性の問題も見直しが必要であり、耐震性が怪しい原発は閉鎖する。
- ・ 事故により、被害が広く及んでいる今回の事故より、EPZを30～50キロに広げて、防災計画を。住民の被害を保証できない原発は閉鎖を。
- ・ 原発から自然エネルギー政策の転換を拡大するためにも、送電網を国が責任を持って管理することなど、課題ごとにどのように揺さぶりをかけ、脱原発が促進する政策を模索していきます。

7月10日に この闘う方針を話し合い、今後の闘いを確認していきます。是非ともご参加下さい。

